

令和5年度 難波中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和5年度 難波中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3年	学校	67	64	47	43	6.6	14.0	6.7
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	70	54.0	47.7	44.3	40.7	50.5	13.3	4.7	13.8	10.5	8.0
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
9月3日	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5
2年	学校	62	65.6	46.8	48.7	34.1	47.9	9.0	4.4	13.5	13.4	12.3
	大阪市	—	66.7	54.6	52.2	39.8	57.2	8.2	3.2	11.2	11.1	8.6
1月9日	大阪府	—	66.8	54.2	52.2	40.3	57.1	8.3	3.5	12.0	11.8	8.9
1年	学校	85	54.1	44.7	42.4	55.8	58.4	12.1	6.3	13.9	1.3	3.6
	大阪市	—	60.6	56.0	55.4	62.2	64.1	8.7	5.2	9.1	1.6	4.3
1月9日	大阪府	—	60.8	—	54.7	—	64.1	9.6	—	10.3	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
3年	学校	62	101.3	99.7	110.7	97.8
10月18日	大阪市	—	101.3	107.7	137.9	102.2

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
2年 男 子	学校	29.77	23.55	56.41	41.52	-----	64.00	8.08	192.07	18.81	39.29
	大阪市	28.62	26.21	42.04	51.65	417.51	79.05	8.05	194.78	19.88	40.79
	全国	29.02	25.82	44.16	51.22	409.02	78.07	8.01	197.02	20.40	41.32
2年 女 子	学校	22.52	21.00	41.55	43.26	-----	48.15	9.64	166.85	11.48	42.05
	大阪市	23.11	22.12	44.78	46.25	313.19	52.11	9.03	165.29	12.10	46.99
	全国	23.15	21.62	46.27	45.65	306.26	50.70	8.95	166.34	12.43	47.22

令和5年度 難波中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語> 全国と比較して、「読むこと」の領域において、全国平均より12.3ポイント下回った。
<数学> 全国と比較して、「データの活用」の領域において、全国平均より0.8ポイント上回ったが、それ以外の領域においては、平均して全国平均より5.5ポイント下回った。
<英語> 全国と比較して、「聞くこと」の領域においてはほぼ全国平均と同じであるが、「読むこと」「書くこと」の領域において、全国平均より4.3ポイント下回った。
<生徒質問紙> 朝食の摂取率や家庭学習の機会が少ない。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語> 大阪市と比較して、「読むこと」の領域において、市平均より2.9ポイント下回った。
<社会> 大阪市と比較して、「地理的分野」の領域において、市平均より3.5ポイント下回った。
<数学> 大阪市と比較して、「図形」の領域において、市平均より2.9ポイント下回った。
<理科> 大阪市と比較して、「地球」の領域において、市平均より2.3ポイント下回った。
<英語> 大阪市と比較して、「聞くこと」の領域において、市平均より0.1ポイント上回った。
<生徒アンケート> 「文章や資料などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んでいる。」に「当てはまる」と回答する生徒の割合は、大阪府平均に比べ3.4ポイント高いが、正答率をみると平均して府・市の平均を下回っている。

○GTEC調査結果

<成果> CEFR A1レベル相当以上の中3生の割合は、市平均と比較して▲9.3%であった。
「読むこと」のスコアは大阪市平均と同じ。それ以外の各技能の市平均との差は次の通り。
「聞くこと」……▲8.0、「書くこと」……▲27.2、「話すこと」……▲4.4
<課題> 次の3点について改善が必要である。
「意味のまとまり」ごとに区切り、状況をイメージして全体の意味をとらえる力が弱い。基本的な英文をつなげ、短い文章を書く力が弱い。また、聞き手を意識し、複数の文で簡潔に自分の考えを伝える力が弱い。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)

<成果> 平均正答率について、府平均(1年生の理科・社会については市平均)と比較すると、5科平均で、1年生は▲8.5、2年生は▲5.5であった。平均無回答率については経年で見ると大きく改善してきている。特に2年生の国語・理科で顕著である。
<課題> 自分の考えを論理的に表現する力に課題があり、その向上を見据えた子ども達への関わり方に意識して取り組む必要がある。

○全国体力・運動能力等調査結果

<成果> 男女別に見ると、次のような結果であった。
男子……握力は全国平均を0.75kg上回り、長座体前屈でも14.37cm上回ったが、反復横跳びでは▲10.13点、シャトルランでは▲15.05回と大きく下回った。
女子……立ち幅跳びでは全国平均より1.56cm上回るが、他の項目では下回った。
<課題> 男子では精神力・忍耐力、女子では柔軟性と基礎体力の向上が課題である。

【今後に向けて】

- 毎日の朝食や家庭学習について、家庭への啓発を継続して行う。
- 生徒質問紙の「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」と思う生徒の割合は全国平均よりも16.3ポイントも多い。言語活動を中心とした帶活動や英語に触れる機会を増やし、まとまりのある内容を書いたり話したりする力を身につけさせる。
- 文章や資料などから、総合的な読解力を向上させることが必要である。この課題解決に向け、教科横断的に論理力を向上させる授業づくりを進める。
- 全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの出題傾向を捉え、授業での発問や出題に活かす。
- <課題> 市平均を下回った3観点について、次のように組む必要がある。
「聞くこと」……英文を聞き「意味のまとまり」ごとに区切り、状況をイメージし全体の意味をとらえる力を付けさせる。
「書くこと」……基本的な英文をつなげ、短い文章を書く力をつける。
「話すこと」……より聞き手を意識しながら話す内容を増やし、複数の文で自分の考えを伝える力をつける。また、意見を述べる場合は、理由や具体例を付け足すなど、内容を豊かにする練習を増やす。
- 授業規律を確保し、生徒の学力向上に向けた授業改善に向けた取組として、授業やその他学校教育活動において「論理力」を高める取組を行う。
- 体力向上については、生活習慣の改善、地域との連携をすすめる。授業においては、授業規律を徹底し、柔軟性を高め、神経系のトレーニング運動、体幹の強化を実施する。

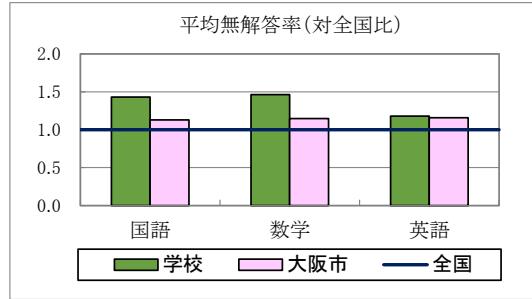
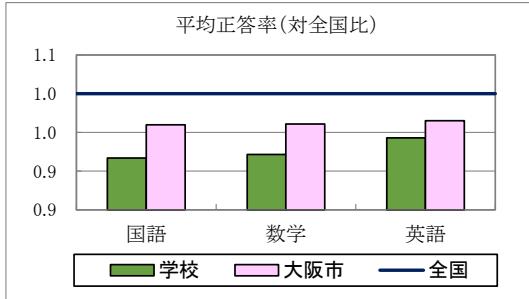
令和5年度 難波中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)		
	国語	数学	英語
学校	64	47	43
大阪市	67	49	44
全国	69.8	51.0	45.6

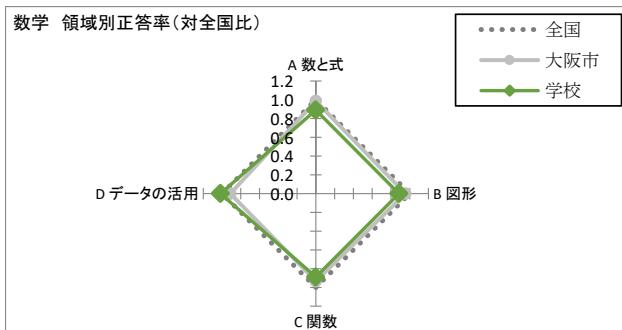
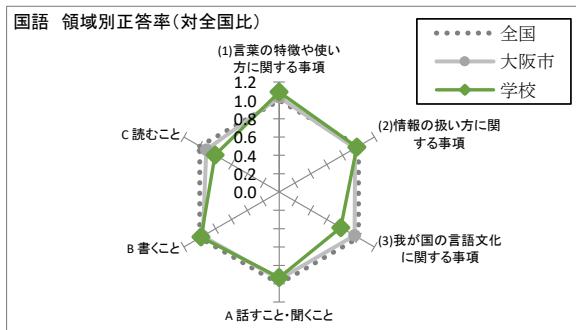
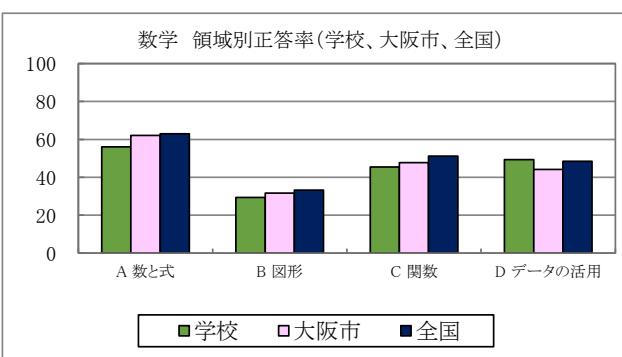
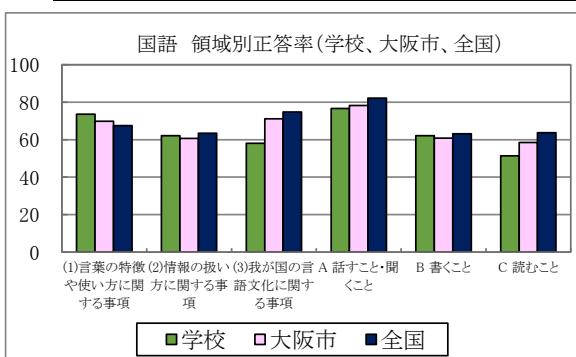
平均無解答率(%)		
国語	数学	英語
6.6	14.0	6.7
5.2	11.0	6.6
4.6	9.6	5.7



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	73.6	69.8	67.5
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	62.1	60.7	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	3	58.1	71.1	74.7
A 話すこと・聞くこと	3	76.7	78.2	82.2
B 書くこと	2	62.1	60.8	63.2
C 読むこと	4	51.4	58.5	63.7

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	56.1	62.1	63.0
B 図形	3	29.4	31.7	33.2
C 関数	4	45.5	47.8	51.2
D データの活用	3	49.3	44.2	48.5

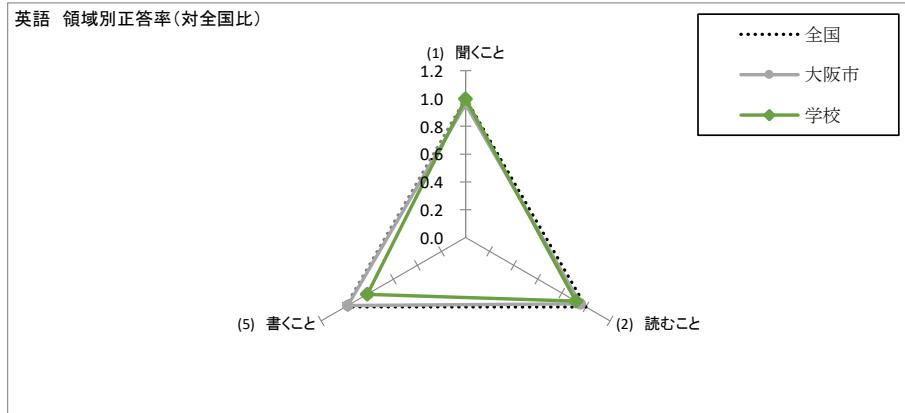
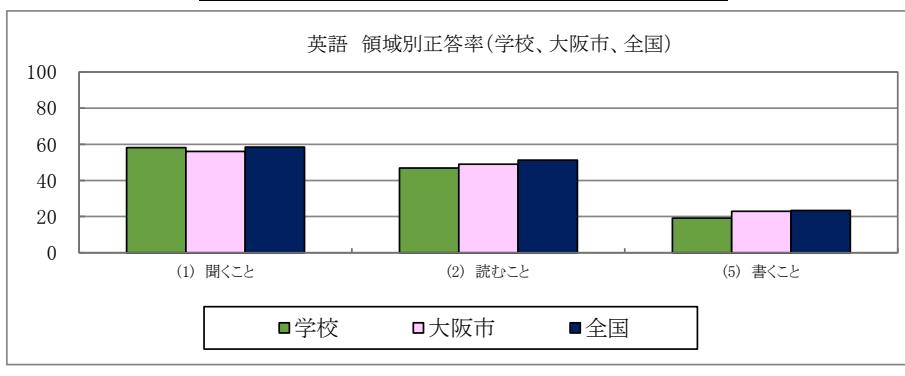


令和5年度 難波中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【英 語】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1) 聞くこと	6	58.2	56.0	58.4
(2) 読むこと	6	46.9	48.9	51.2
(3) 話すこと[やり取り]	0			
(4) 話すこと[発表]	0			
(5) 書くこと	5	19.1	22.9	23.4



令和5年度 難波中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

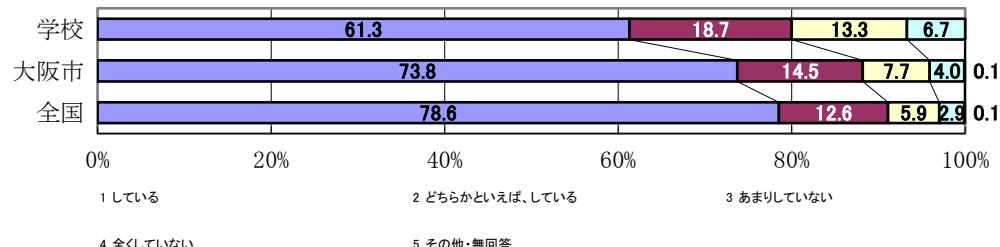
生徒質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

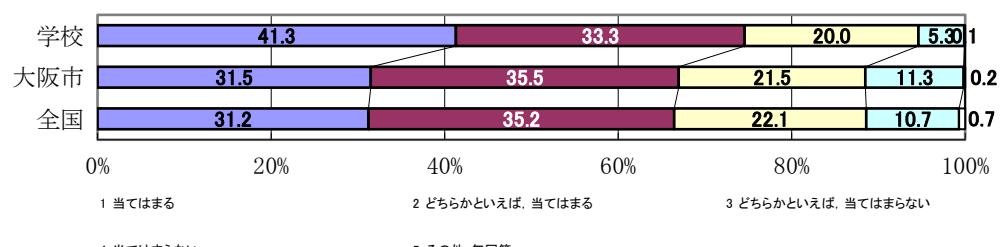
1

朝食を毎日食べている



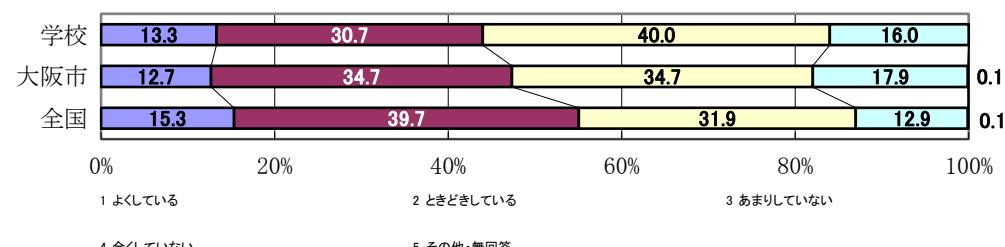
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



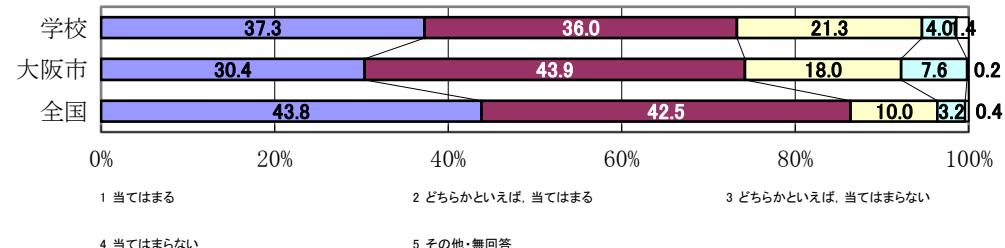
16

家で自分で計画を立て勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含みます)



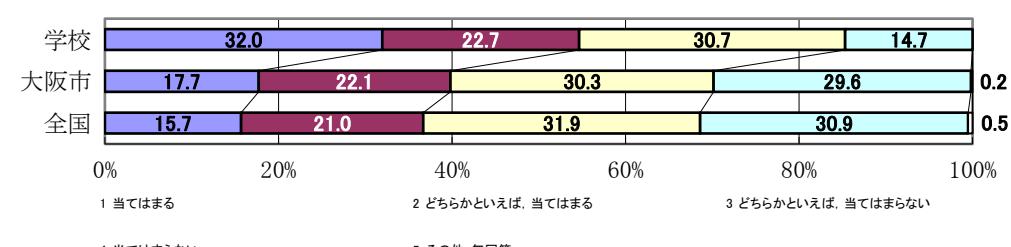
46

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる



63

将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う



令和5年度 難波中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問紙より

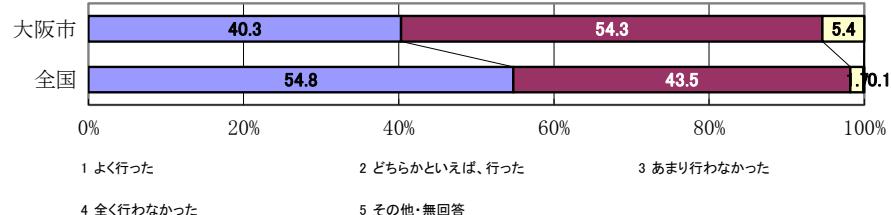
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

13

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った

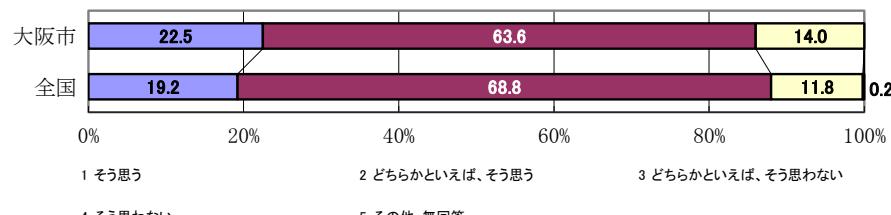
学校 「よく行った」を選択



26

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

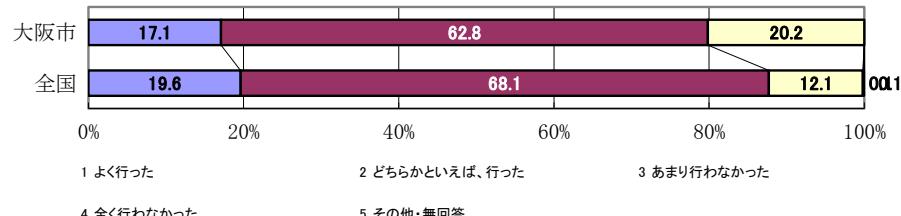
学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



34

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした

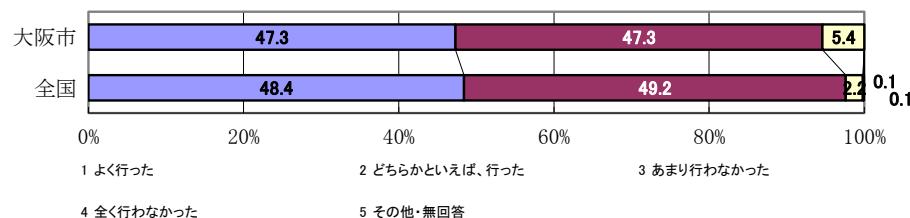
学校 「あまり行わなかった」を選択



48

調査対象である第3学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していた

学校 「よく行った」を選択



69

前年度に、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか

学校 「年1回以上」を選択

